

スピーカー 音質比較

FOCAL Aria Series PMC Twenty 24

FOCAL

Aria 926

希望小売価格 ¥380,000 (WN・ペア)

希望小売価格 ¥420,000 (BHG・ペア)

形式：3Way・パスレフ方式●ユニット：
高域：25mm/TNF.AL.MGL 逆ドーム
中域：165mm×1、低域：165mm×2
●能率91.5 dB/2.83V/1m●クロスオー
バー：290Hz/2400Hz●周波数特性：
45-28kHz●インピーダンス：8Ω●サイ
ズW294×H1035×D371(mm)●重量：
25Kg(1 台)●仕上げ：WN：ウォール
ナット BHG：光沢ブラック



PMC

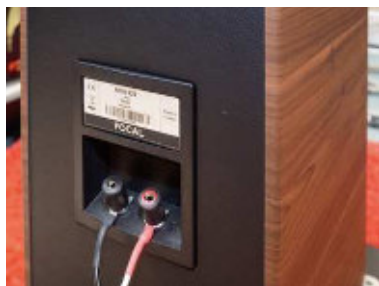
Twenty 24

希望小売価格 ¥650,000 (ペア)

形式：2Way トランスミッションライン
方式●ユニット：高域：27mm/ シルク
ドーム 中低域：170mm×1●能率：90
dB/1W/1m●クロスオーバー：1800Hz
●周波数特性：28-25kHz●インピーダ
ンス：8Ω●サイ ズ：W184×H
1028×D419(mm)●重量：21Kg(1 台)

Aria Series の特長

フォーカル社は元来「高性能ユニットを開発」し、それを自社製品に搭載することで高い評価を得て成長してきたメーカーです。これまでもポリガラスに始まり、K2 サンドイッチ、W サンドイッチ、ケブラー、チタン、ベリリウム、アルミニウム - マグネシウムなど数々の優れた振動板を採用してきました。世界には数多くのスピーカーメーカーがありますが、ドライバーユニットまで自社生産するメーカーは少数です。フォーカル社は Aria900 シリーズのためにまったく新しい素材を使うスピーカーコーンを開発しました。それが Aria900 シリーズに始めて採用された、グラスファイバーで天然素材のフラックス（亜麻繊維）をサンドイッチした振動板（F サンドイッチコーン、フレームには誇らしげな "Made in France" の文字が！）です。



Aria900 シリーズはブックシェルフ型の「906」トールボーイ型の「926、936、948」の4製品がラインナップされます。仕上げはブラックハイグロスとウォールナットの2種類でガラスの天板と合成皮革仕上げのフロントバッフルが採用されています。また、見えない背後にまで皮が張り込まれている所などに、Aria に対する Focal 社の熱意を感じました。スピーカーの入力は、シングルワイヤリングです。

「Aria906、926、936」はそれぞれ6.5インチのFサンドイッチコーン採用バス・ミッドレンジを各1基、3基、4基搭載しています。「Aria948」には8インチFサンドイッチコーンのバスドライバー 2基が搭載され、ツイーターにはいずれもポロンエッジの25mmTNF アルミニウム/マグネシウム合金製逆ドームトゥイーターが搭載されています。パスレフポートはすべてのモデルでフロントに開口部が設けられ、壁などの影響を受けにくいように配慮されています。トールボーイ型のベース部には独立したプレートが装着され、スパイクとスパイクベースが付属します。



使用した機材



Marantz SA14S1



Marantz PM14S1

Aria Series のラインナップと主な仕様

FOCAL
Aria 906

形式：2Way・バスレフ方式●ユニット高域：25mm/TNF AL.MGL 逆ドーム 中・低域：165mm×1●能率：89.5dB/2.83V/1m●クロスオーバー：2800Hz●周波数特性：55-28kHz●インピーダンス：8Ω●サイズ：W225×H390×D250mm●重量：8.5Kg(1台)●仕上げ：WN/BHG
希望小売価格 ¥162,000 (WN・ペア)
希望小売価格 ¥192,000 (BHG・ペア)

FOCAL
Aria 926

形式：3Way・バスレフ方式●ユニット：高域：25mm/TNF.AL.MGL 逆ドーム 中域：165mm×1、低域：165mm×2●能率：91.5dB/2.83V/1m●クロスオーバー：290Hz/2400Hz●周波数特性：45-28kHz●インピーダンス：8Ω●サイズ：W294×H1035×D371(mm)●重量：25Kg(1台)●仕上げ：WN：ウォールナット BL：光沢ブラック



希望小売価格 ¥380,000 (WN・ペア)
希望小売価格 ¥420,000 (BHG・ペア)

FOCAL
Aria 948

形式：3Way・バスレフ方式●ユニット：高域：25mm/TNF.AL.MGL 逆ドーム 中域：165mm×1、低域：210mm×2●能率：92.5dB/2.83V/1m●クロスオーバー：280Hz/2600Hz●周波数特性：37-28kHz●インピーダンス：8Ω●サイズ：W371×H1150×D420(mm)●重量：35Kg(1台)●仕上げ：WN：ウォールナット BHG：光沢ブラック

希望小売価格 ¥600,000 (WN・ペア)
希望小売価格 ¥660,000 (BHG・ペア)



希望小売価格 ¥470,000 (WN・ペア)
希望小売価格 ¥530,000 (BHG・ペア)

形式：3Way・バスレフ方式●ユニット高域：25mm/TNF.AL.MGL 逆ドーム 中域：165mm×1、低域：165mm×3●能率：92dB/2.83V/1m●クロスオーバー：260Hz/3100Hz●周波数特性：39-28kHz●インピーダンス：8Ω●サイズ：W294×H1150×D371(mm)●重量：29Kg(1台)●仕上げ：WN：ウォールナット BHG：光沢ブラック

FOCAL
Aria 936

PMC Twenty 24 の外観と特徴

The base unit The tweeter



品に共通する 24dB/oct の遮断特性を持つ PMC オリジナル・クロスオーバーユニットが使われています。スピーカー入力端子には高級なものが奢られ、入力は PMC の伝統に従い Bi-Wire (Bi-AMP) 対応となっています。

そして PMC ならではの「トランスミッションライン」は Twenty シリー

ズにも採用され、サイズを超える重低音が再現されます。トランスミッションラインの開口部は前面下部に設けられ、設置がやりやすくなっています。

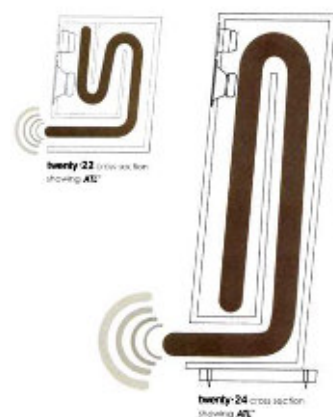
Twenty シリーズではサラネットの取り付けが「マグネット方式」となりツイーターとトランスミッションラインの開口部にグリルが設けられ、サラネットを外した状態でも良好な外観と高い安全性を保ちながら音楽を再現することができます。



搭載されているツイーターは高級家庭用モデルの Fact シリーズと同じ SEAS 社との合同開発によるソフトドーム型が採用されていますが、口径は異なります。ウーファーは Twenty 21 に 140mm、Twenty 22 では 170mm 口径の軽量コーン型が採用されています。このウーファーユニットは Twenty Series 専用として開発されています。ネットワークには PMC 全商

スピーカー 音質比較

FOCAL Aria Series PMC Twenty 24



トランスミッションライン構造図

PMC Twenty 24 音質テスト



Michael Jackson/ アルバム：ヒストリー・パスト、プレゼント・アンド・フューチャーブック 1/ 曲：Billy Jean

低音の量感はそこそこですが、膨らまず引き締まっています。高音は明瞭ですが、輪郭に髭が付いたように少しチャラチャラしています。マイケルの声は抑えめで、ニュートラルからやや重い感じです。余計な響きの少ない、無駄のない美しい音でマイケルが鳴ります。全体的に知的な印象で精密に組み立てられた音楽を聞いている感覚です。弾けるような煌びやかさや派手さはないのですが、聞いていると不思議に身体の奥が熱

くなります。車に例えるなら、ドイツ車の乗り味に似ているでしょうか？音はクールですが表現は決してクールではない。決められた枠の外に出ることなく、その範囲内で安心して弾けられる感覚でマイケル・ジャクソンが鳴りました。



Nora Jones/ アルバム：Come Away With Me 曲：Cold Cold Heart

ウッドベースの一番低い部分、空気が静かに揺れるような「ウッドベースの胴の音」ができていません。スペック上はかなり低い周波数まで再生されるTwenty24 ですが、低音が少し軽くまた若干希薄な感じがします。セットで40万円強の実売価格を考えるならば、中高音は合格ですが低音はもう少し出て欲しい感じです。しかし、低音が少し薄いのは試聴にPM14S1を使ったのも原因しているかも知れません。

ピアノはプレゼンス、音色の色彩感共に美しく、カラフルなサウンドです。ノラの声は適度に湿っていて、女性らしい色気も感じます。

マイケルではほんの少し大人しく感じた音でしたがノラ・ジョーンズでは湿り気を感じさせながらも、明るくチャーミングな音に感じられます。JazzとPMCのマッチングは思ったよりも優れていて、緻密でクールな表情ながらもチャーミングな音でノラ・ジョーンズが鳴りました。



Hilary Hahn/ アルバム：Violin Concertos 曲：Bach Concerto

Marantz の 14S1 のセットを他メーカーの製品と比較するならば、音のバランスと音楽のナチュラルな再現性に優れていると思います。

「ステージの大きさ」はもう少し頑張っ欲しい感じもありますが、録音に問題のある「グラムフォン」のソフトでこれくらい音が広って、楽器の音がほぐれて鳴れば十分音楽を楽しんでいただけたと思います。コンサートマスターと伴奏、バイオリンとチェロ、コ

ントラバスの対比も正確に再現される理知的で整理された音がバッハという曲に実に良くマッチして、納得の音質でコンチェルトを楽しむことができました。

総合評価

PMC TWENTY24 は決して音が明るいスピーカーではありませんが、Marantz 14S1 との組み合わせでは意外にそれが明るく快活に良く鳴ります。国産コンボの最も弱い「音楽のバランス」に優れているのが 14S1 の最大の魅力だと思います。外観の美しさに見合う音の良さと、デザインセンスの高さに見合う音楽的なバランスの良さを合わせ持った良いコンボだと思いました。Twenty24 は、スペックから想像するほど低音が「ゴリゴリ」出てくるスピーカーではありませんが、ゆったりと広がる低音（オルガンや交響曲の低音のような）

はスペック通りにシッカリ出てくる感じです。たった 170mm の口径のウーファーを使う 2Way 方式から、ここまで低い周波数を再現できるのは PMC オリジナル技術、トランスミッションラインのなせる技です。2Way のまま低域の周波数帯域を広げるメリットは、中高域のきめ細やかさと音質感の高さ、音色の調和の素晴らしさに表れます。下手なマルチウェイスピーカーでピアノを再現すると、各帯域での「楽器の音色」が変わってしまい一体「どのメーカーの楽器が使われているのか？」判別できないことがあります。このよう

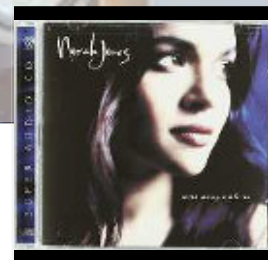
なスピーカーでは音楽が正確に再現されず、生演奏とはまったく異なる感覚で音楽が再現されてしまいます。その点、帯域分割を一度しか行わない 2Way という方式と、27mm と 170mm というユニット口径の近さ（口径が近ければ近いほど再生される楽器の音色が調和しやすくなります）から得られる PMC ならではの「精度の高さ」には、何時この製品を聞いても舌を巻かれます。オーディオ機器をあくまでも「録音の正確な再現」と考えるなら、PMC を超えるスピーカーはないと確信します。

Focal Aria926 音質テスト



Michael Jackson/ アルバム：ヒストリー・バスト、プレゼント・アンド・フューチャーブック 1/ 曲：Billy Jean

Twenty24 とくらべスベックではかなり見劣りする Aria926 ですが、実際に聴いてみると低音の量感が大きく増してベースが前に出てきます。Aria926 だけを聞いているときはあまり意識しなかったのですが、TWENTY24 と聞き比べると「バスレフ部分の膨らみ」がはっきりと聞こえます。また中音のやや低い部分に若干の曇りを感じますが、この部分がエンクロージャー（箱）の鳴きが見事に制御された PMC



Nora Jones/ アルバム：Come Away With Me 曲：Cold Cold Heart

Twenty24 ではやや物足りなかった、ウッドベースの低音が



Hilary Hahn/ アルバム：Violin Concertos 曲：Bach Concerto

明るく楽しい音で、快活にバッハが鳴ります。しかし「箱鳴き」のためなのか、空間の濁り（濁った響き）は、Twenty24 よりも若干増したようです。バイオリンの音はしなやかで優しく

TWENTY24 とバスレフ方式を採用する Aria926 の違いでしょう。しかし、その膨らみは音質を損ねるほどのものではありません。またこのような良い響きはアンプのラウドネススイッチの働き、音楽のボリュームを増加させる方向に働きますから音量を絞った時に中低音が痩せないという魅力が出ると思います。マイケルの声は Twenty24 とほとんど同じ音量（このソフトは全体的にマイケルの声が小さめ）でぐいぐい前には出ませんが、高音の切れ味と明瞭感では Aria926 が Twenty24 を上回ります。これは、ツイーターの振動板に金属が使われているか（Aria926）布が使われているか（Twenty24）の違いでしょう。もちろんそれぞれ一長一短あり、どちらが良いとは断定しかねます。全体的な音の出方は構成が似ている B&W の CM Series に近い方向ですが、Aria926 は B&W よりも中低音の量感が豊かで（中低音に適度なサービス感がある）、高音も B&W よりもしなやかで暖かい印象です。

Aria926 ではしっかり再現されます。また、低音が増えたことで雰囲気の高さ、空気感まで感じられます。Twenty24 で聞くノラ・ジョーンズは、ステージで歌っているノラをやや離れた場所で聞いている感覚でした。Aria926 ではそれが目の前でライブを聴いている感覚に変わります。SA/PM14S1 と Twenty24 の組み合わせもそれほど悪くはないと思いましたが、Aria926 との組合せはそれをグッと上回り、まるで違う CD プレーヤーと

暖かい雰囲気です。チェロとバイオリン、コントラバスの対比は Aria926 を Twenty24 が超えていましたが、低音の量感と音の広がりでは Aria926 が Twenty24 を凌駕します。ただ、この低音の量感や音場の広がり感、組み合わせるコンポ（アンプ）との相性や、部屋の広さや環境などのルームアコースティックに大きく影響されますから、今回の評価は「相対的なもの」とお考え下さるほうが安全だと思います。

PMC が明らかに focal より優れているのは、楽器の倍音の緻密さです。Twenty24 で聞く弦楽器の倍音は、

Aria926 の奏でる音楽は、フランス料理のようです。「バター」の濃さは中低音のしっとりした量感、香りの良さは高音の切れ味に相当するでしょう。やや濃くねっとりした音ですが、食事と違い音はそう言うものを聞き続けても身体に害がなく、胸焼けもしません。だからこういう脂っこい音は、特性を重視するあまり痩せてしまった音しかでないスピーカーよりも断然良いと思います。高音がたくまろやかなのも、神経質にならず良いと思います。

マイケルジャクソンを聞いていて、時々「静」と「動」の対比を強く感じます。それはマイケルが時には神経質なまで精密に音楽を組み立て（静）、また時に驚くほどの躍動感（動）でそれを弾ませるからでしょう。この対比の大きさはマイケルならではだと思えます。PMC はマイケルの魅力を「静方向」から、Focal は「動方向」からそれぞれ引き出したように感じました。

アンプを聞いているように感じました。文句なしによい音です。また、この鳴り方から想像すれば、B&W と SA/PM14S1 の組み合わせも悪くはないはずです。ピアノの響き方、ノラ・ジョーンズの息吹、そういう「ブラサルファ」が加わった、色っぽく厚みのある暖かい情緒豊かなサウンドでノラ・ジョーンズを艶やかに楽しめました。

まるでパイ生地のようにみっちり重なり合っているように感じました。それに比べると Aria926 が奏でる倍音は数が少なく、パイ生地がバームクーヘンに変わるイメージです。

響きの密度感も Twenty24 が Aria926 を上回り、価格差とPMCの精度の高さを感じさせられました。しかし、音場の広がり感やコンサートホールの雰囲気は、Aria926の方が「それらしく」再現されるので、どちらが良いと判断することができません。好みやコンポ、部屋の音響特性とのマッチングでお選びいただければと思います。

総合評価

最近一時ほどの「売れ筋」ではなくなった PMC の原因は「デザイン（外観）」が原因ではないかと感じています。それは、65 万円（ペア）の Twenty24 が 2Way 2Speaker なのに対し、約 40 万円（ペア）の 926 が 3way 4Speaker と見た目の豪華さが明らかに違うからです。しかし、スピーカーの性能を考えるとたった二つのユニットから 28-25000Hz の非常に広い再生周波数帯域を実現する Twenty24 のスペックは、他のスピーカーを圧倒していることがわかります。例えば、今回比較した Focal Aria 926 はよりサイズが大きく 4 つのユニットを搭載するにもかかわらず、45-28000Hz と再生周波数の下限が Twenty24 よりもかなり高くなっています。「低域（再生周波数帯域の下限）」を比較するなら、Aria 926 の上級モデル Electora 1028BE は 34Hz、B&W 802Diamond でさえ 34Hz ですから Twenty24 がいかに優れたスペックを持っているかわかります。Twenty24 が 2Way の小型トールボーイデザインにもかかわらずこれほど低い周波数まで再生できるのは、PMC 独自の「トランスミッションライン」方式を採用しているからです。「トランスミッションライン」とは、キャビネット内部に仕切りを設けることでユニットとキャビネットのサイズを超える優れた低域再生方式ですが、PMC はそれを採用するため角張った四角い形状から逃れられないのです。結果として PMC は価格を超える優れた音質を持ちながら、他社製品のように現在のトレンドである曲面を「外観に使えない」問題を抱えます。しかし、柔らかな曲面が流行しつつある一般的なスピーカーの「デザイン有利性」に逆行してまで、

2Way という最小のユニット数での再生周波数帯域拡大にこだわる PMC には、2Way ならではの「小型キャビネット採用による余計な響きの少なさ（音場の透明感の高さ）」と「帯域分割が少ない 2Way 方式による質感の高さ（録音された音に最も近い音質を持つ）」が魅力です。この他社スピーカーにない独自の魅力を持つ Twenty24 は、今回の試聴でも磨き抜かれた音の美しさで Aria926 を圧倒しました。では Aria926 は、Twenty24 に劣るのでしょうか？

それは、また違っています。オーディオは絶対性能ではなく、好みで選ぶものだからです。

最近私は「オーディオ機器は響くべきである、オーディオ機器の作る響きは音楽そのものである」と主張していますが、Aria926 はこの考えにうまく当てはまります。スペック上の再生周波数帯域こそ Twenty24 に敵わない 45Hz ですが、箱が響くことで Aria926 の「低音感」は TWENTY24 を凌ぎ、ウッドベースの音などはよりそれらしくリッチに聞こえました。また、キャビネットの響きに助けられ、音の広がり感や躍動感も秀でていきます。スタジオモニターとして音楽評価に使うのではなく、家庭用として音楽鑑賞にスピーカーを使うことを考えるならば、Aria926 のほうが Twenty24 よりも満足度は高くなるでしょう。Focal と同じ設計思想から生み出された、イギリスを代表するモニタースピーカー B&W 製品と Aria 926 を比較するのであれば、Aria926 はよりカジュアルで情緒豊かなサウンドに仕上げられています。これはイギリス人とフランス人の違いが音に現れていると考えられま

す。理詰めのイギリスの音が B&W で、リベラルで情緒的なフランスの音が Focal です。また、B&W よりも明るく楽しい音で音楽を聞かせてくれるイタリア Sonus Faber の新製品 Venere との比較では、Aria 926 の響き（キャビネットの響き）がより高密度で上質に感じます。それは、もしかすると“SonusFaber: Maid in China”, “Focal: Maid in France”の差が音に出るのかも知れませんが、あるいはユニットそのものから製造する Focal の技術力の高さによりなせる技なのかも知れません。逸品館がお薦めするヨーロッパのスピーカーブランド、PMC、B&W、Focal のそれぞれの違いを「布生地」に例えましょう。

PMC は「ファインシルク」、音の表面はきめ細かく滑らかで触れると一瞬冷たく感じますが、それに慣れると懐の深い暖かさを感じられます。B&W は「ファインコットン」、からりとしてさっぱりした肌触りの良い音で PMC より乾いた音です。Focal は「カシミア」でしょうか、ふわりとした肌触りの軽さを持ち、身体を芯から温めてくれる HOT な音質です。

Focal 新旧の比較では、Aria Series は従来モデルよりもエンクロージャーの響きが増しているように感じます。大型スピーカーのような大らかでゆったりとした鳴り方はとても魅力的です。名器と呼ばれるスピーカーの一つに Tannoy Arden がありますが、Aria926 の中低域のボリューム感と高域の明瞭度感の高さから感じる魅力は、Arden を上手く鳴らせた音に共通するように思いました。Aria 926 はフランス製品らしく、スイートで色気のあるスピーカーでした。